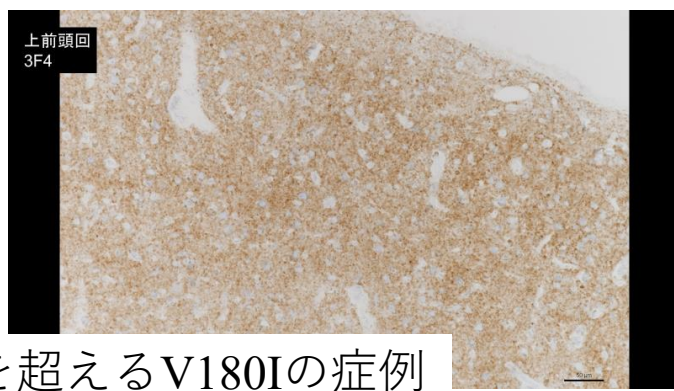
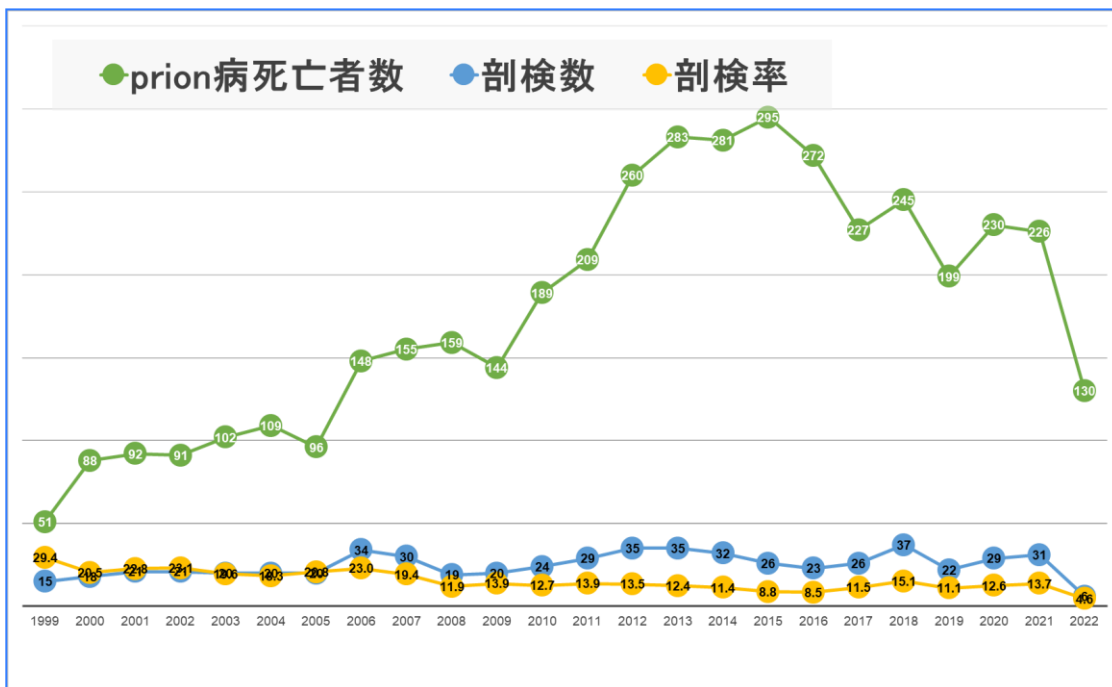


プリオン病病理解剖の推進

研究分担者：国立精神・神経医療研究センター病院 高尾昌樹



100歳を超えるV180Iの症例

解説

1. 日本におけるプリオン病の解剖数は2000年台広範からは微増したが、解剖率は増加しているとはいえない。死亡者数が増加しているのは、サーベイランス体制の充実に加え、診断精度の向上、高齢発症者の増加などが関与しているであろう。
2. 100歳を超える症例もみられることがあり、特に日本に多いV180I例は高齢発症が多い(平均=79歳：阿江研究分担者のデータによる)